

# 日本電子(株)中間決算説明会

**JEOL**



2005年11月28日

# Contents

2006年3月期中間決算の概要と通期の業績予想

取締役副社長 大塚 東

2005年度の重点施策の実施状況

代表取締役社長兼COO 原田 嘉晏

司会進行 経営戦略室長 福山 幸一

# 2006年3月期中間決算概要と 通期の業績予想

取締役副社長 大塚 東

# 2006年3月期 連結上期実績 および通期業績予想

(単位:百万円)

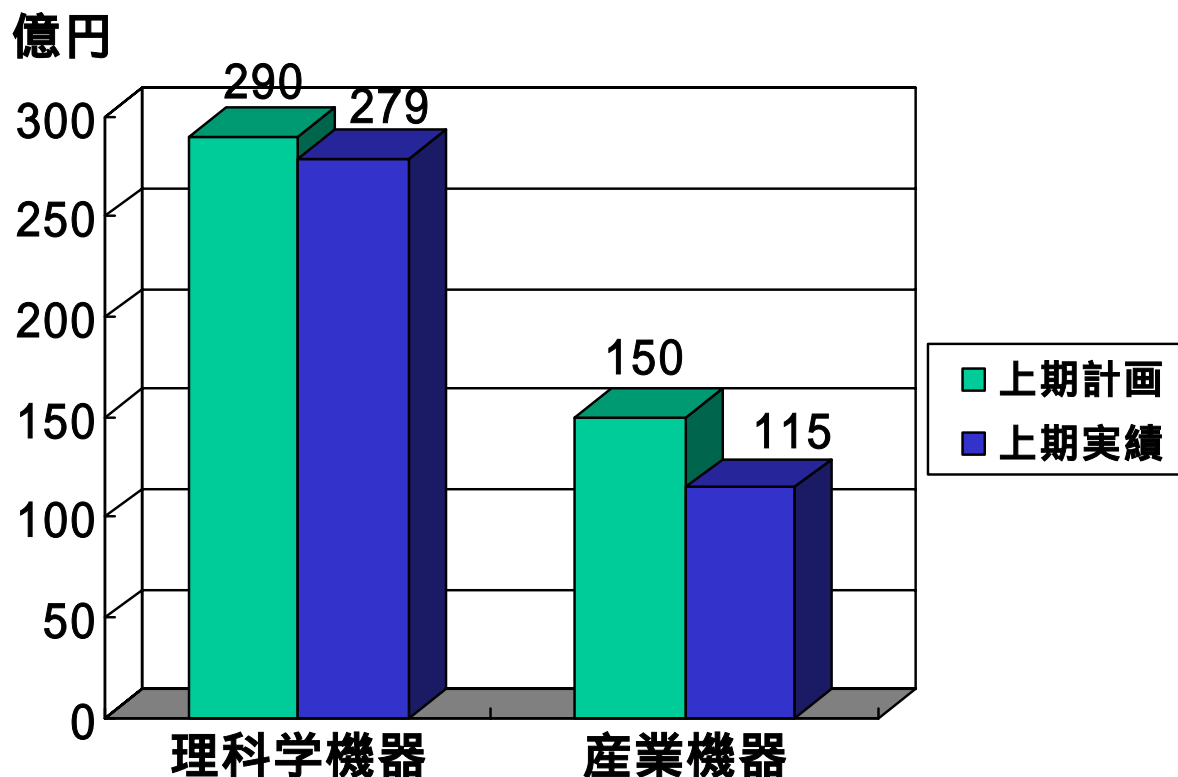
	2005年度上期計画		2005年度上期実績		2004年度	2005年度
	金額	売上高比(%)	金額	売上高比(%)	実績	予想
売上高	44,000		39,400		85,914	92,000
営業利益	1,000	2.3	-549	-1.4	1,985	2,000
経常利益	900	2.0	-484	-1.2	1,628	1,800
当期純利益	500	1.1	-496	-1.3	1,244	800

# 2006年3月期 連結上期実績 および通期業績予想

(単位:百万円)

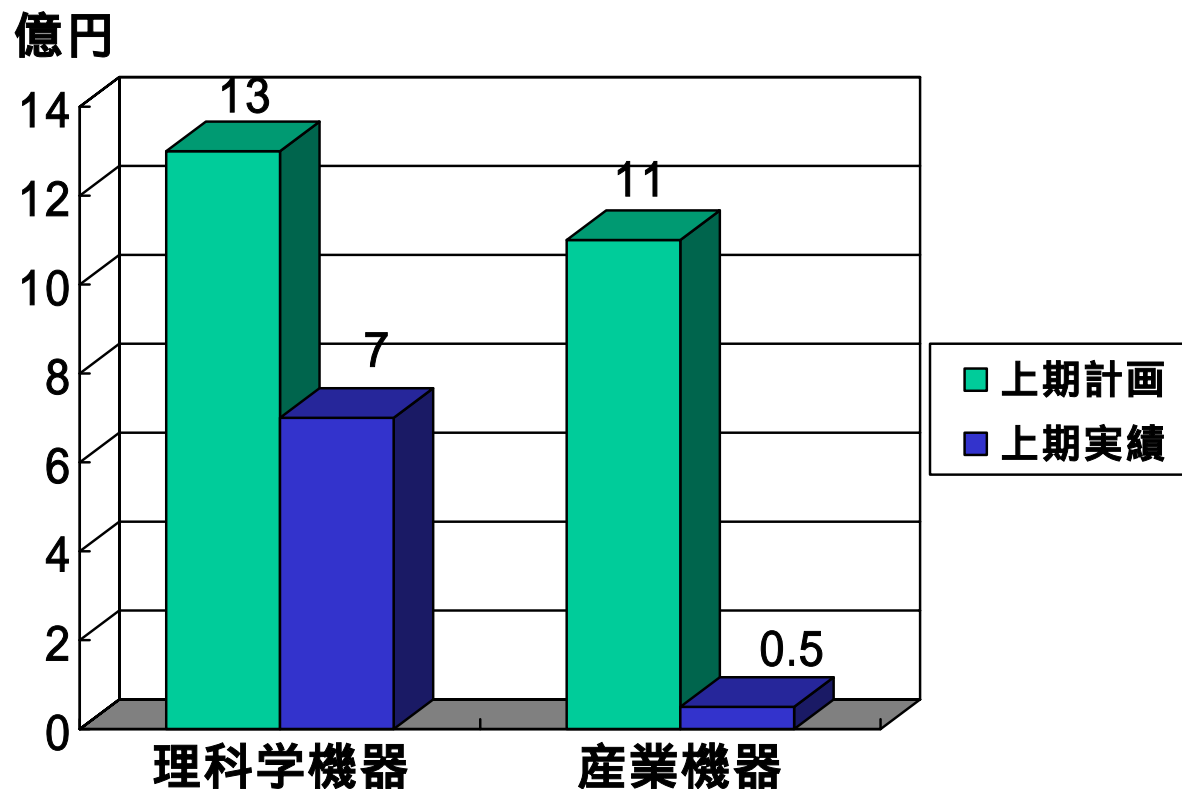
	2005年度上期計画		2005年度上期実績		2004年度	2005年度
	金額	売上高比(%)	金額	売上高比(%)	実績	予想
設備投資額	1,300	3.0	949	2.4	3,774	2,400
減価償却費	1,200	2.7	1,139	2.9	2,622	2,400
研究開発費	2,200	5.0	2,360	6.0	4,435	4,600

# セグメント別上期売上高



- 理科学機器 上期計画に対し11億円減少
- 産業機器 上期計画に対し35億円減少

# セグメント別上期営業利益

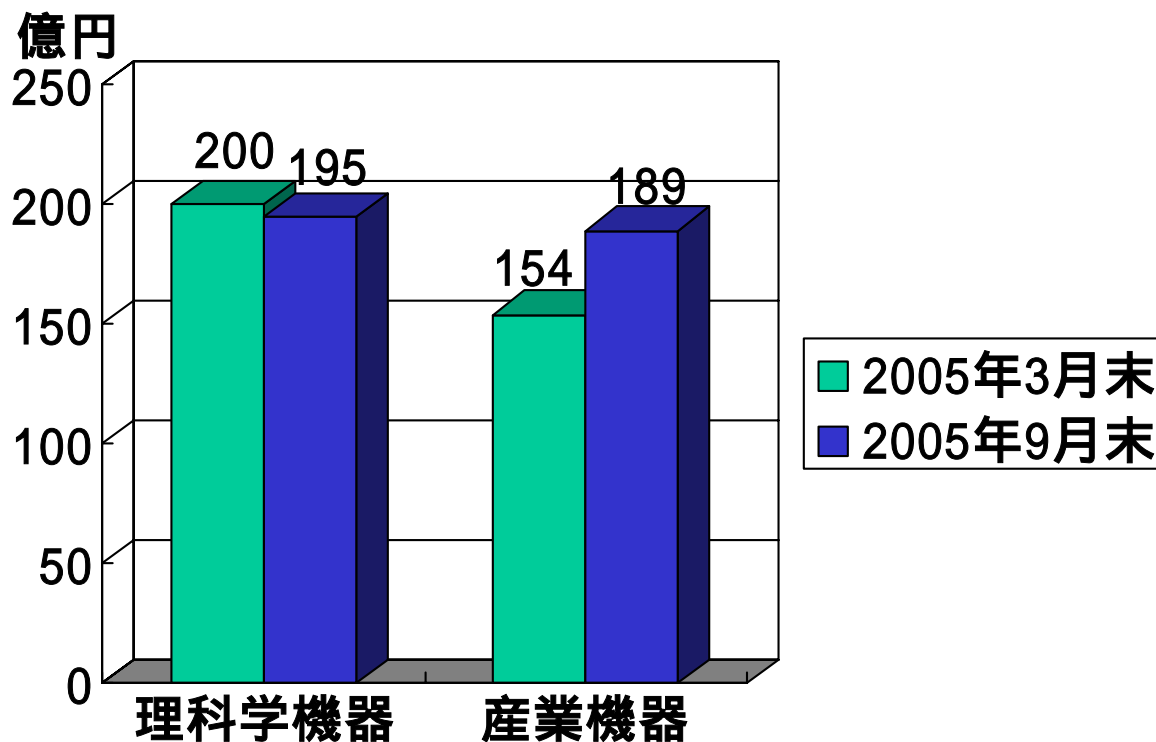


# 上期収益悪化の要因

- 全般的な売上の進捗の遅れ
- 特に産業機器の売上の進捗の遅れ
  - デジタル家電の在庫調整により、電子ビーム蒸着用電子銃・電源等の売上の遅れ
  - 電子ビーム描画装置の売上が下期偏重



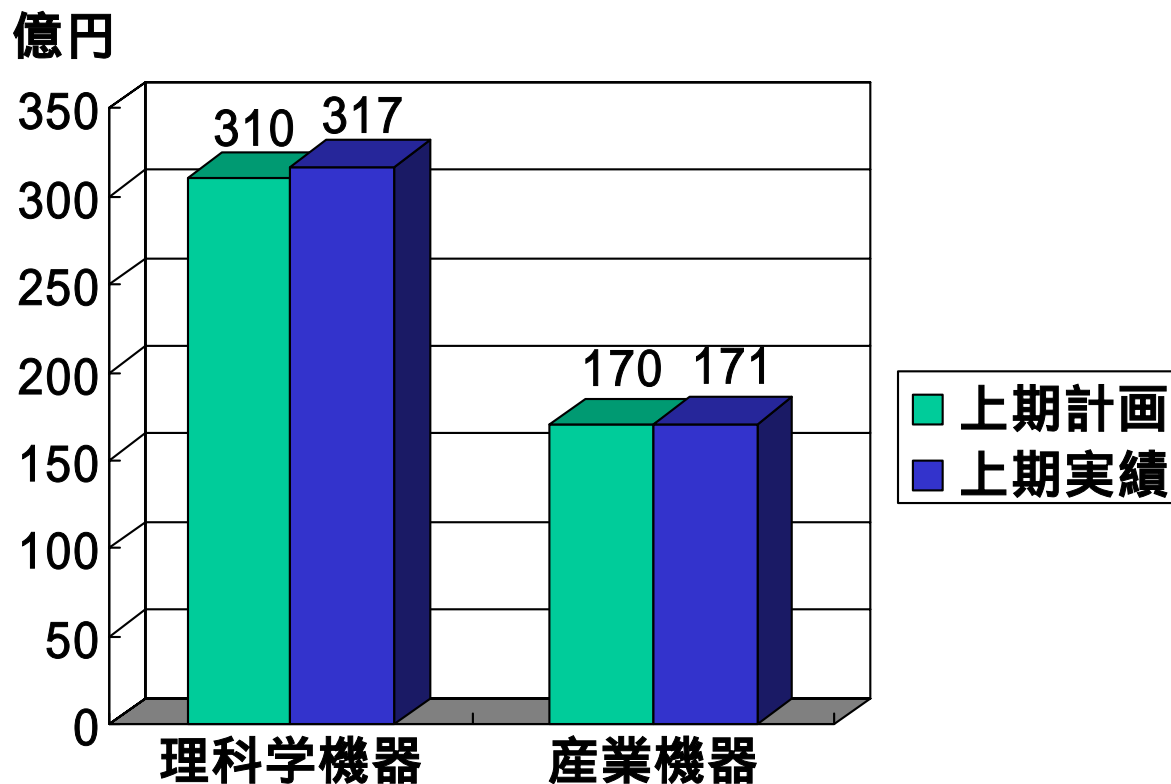
# セグメント別棚卸資産



期首比30億円増

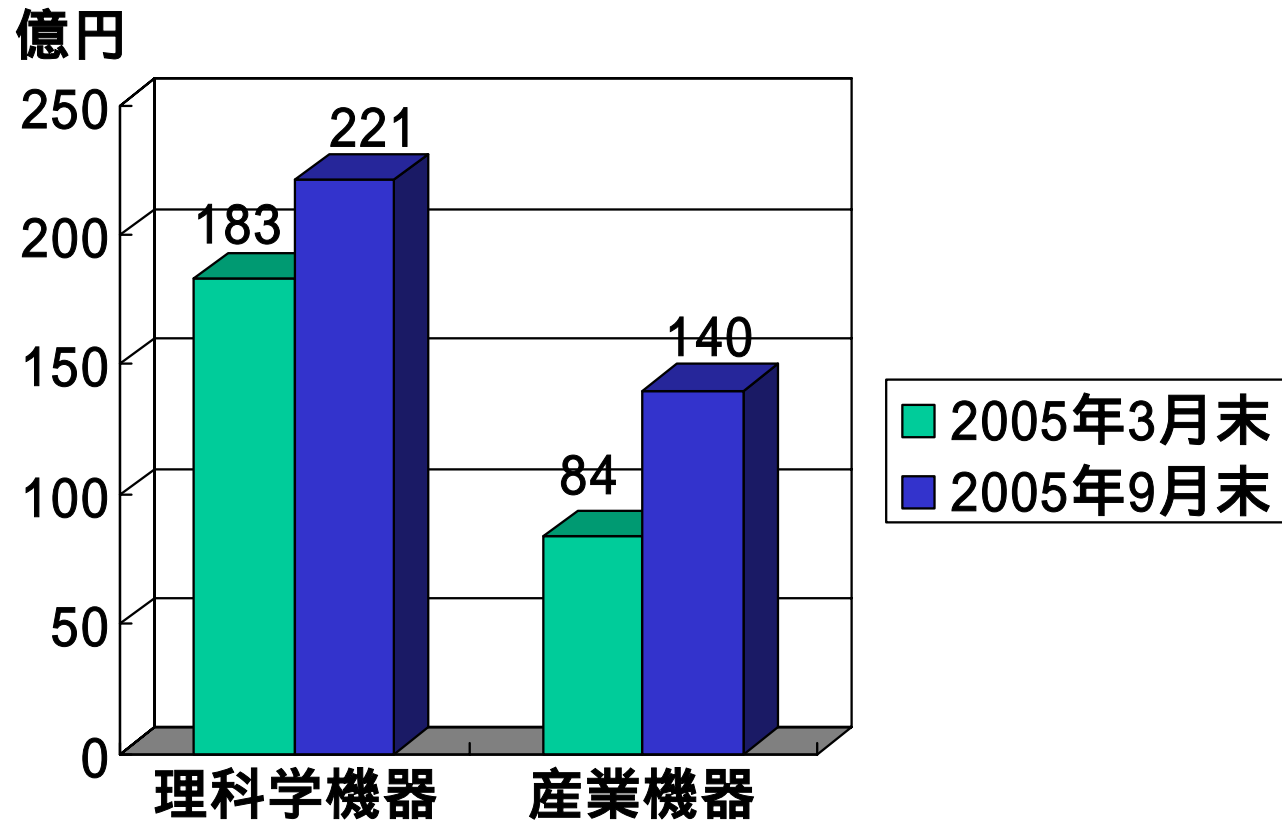
半導体機器の仕掛増加による

# セグメント別上期受注



上期計画に対し、堅調に推移

# セグメント別受注残



# キャッシュ・フロー計算書

単位：億円

	2004年度		2005年度	対前上期
	上期	通期	上期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	17	15	1	16
投資活動による キャッシュ・フロー	9	27	2	7
財務活動による キャッシュ・フロー	21	19	2	23
現金及び現金同等物の 増減額	46	30	1	45
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	67	82	81	14

# 通期の業績予想

(単位:百万円)

	2005FY計画		2005FY上期実績		2005FY下期計画	
	理科学機器	産業機器	理科学機器	産業機器	理科学機器	産業機器
売上	60,000	32,000	27,864	11,535	32,136	20,465
営業費用	57,500	29,700	27,146	11,482	30,354	18,218
営業利益	2,500	2,300	717	53	1,783	2,247
消去又は全社	2,800		1,320		1,480	
経常利益	1,800		484		2,284	
当期純利益	800		496		1,296	

# 通期計画達成への施策

## ■ 半導体機器の売上確保と医用機器の収益向上

### ● 電子ビーム描画装置の売上確保

マスク描画装置の受注・売上台数推移

	03年度	04年度	05年度計画	05年度上期実績	05年度下期予定
受注	4	5	8	4	4
売上	8	4	8	3	5

### ● 自動分析装置の売上確保と試薬ビジネスの展開

自動分析装置の受注・売上台数推移

05年度以降は大型装置を含むためブロック数で表示しております。

	03年度	04年度	05年度計画	05年度上期実績	05年度下期予定
受注	350	440	620	240	380
売上	300	410	600	210	390

- ・品揃えの完備による販売力強化。
- ・試薬メーカーとの提携による試薬、消耗品販売により、売上、利益の拡大を図る。

# 2005年度の重点施策の実施状況

2005.11.28

**JEOL** 日本電子株式会社  
代表取締役社長兼COO **原田 嘉晏**

# 2005年度の重点施策

(中期経営計画「Focus Plan 2006」の  
達成に向けたステップ)

東北生産拠点の拡張

生化学自動分析装置の増産対応と原価改善

海外の販売力強化

産学官連携強化

組織のスリム化

キャパシタ事業の推進



# 重点施策の実施状況

## 東北生産拠点の拡張

- 山形クリエイティブ(株)天童工場の拡張工事を完了
- 透過電子顕微鏡、フィールドエミッション走査電子顕微鏡の生産を拡大
- 医用機器の生産も開始



# 重点施策の実施状況

## 生化学自動分析装置の増産対応と 原価改善

- 山形クリエイティブ(株)天童工場での生産開始
- 試薬ビジネスの展開

試薬メーカーとの提携による試薬、消耗品  
販売により、売上、利益の拡大を図っていく  
ビジネスモデルを構築

# 重点施策の実施状況

## -1 海外の販売力強化

### ●ロシアに新たなサービス拠点を設立

日本電子データム(株)が9月にモスクワにサービス事務所を開設。

ロシア地域におけるサービスシステム構築を図り、更なる受注促進・販売拡大を狙う。



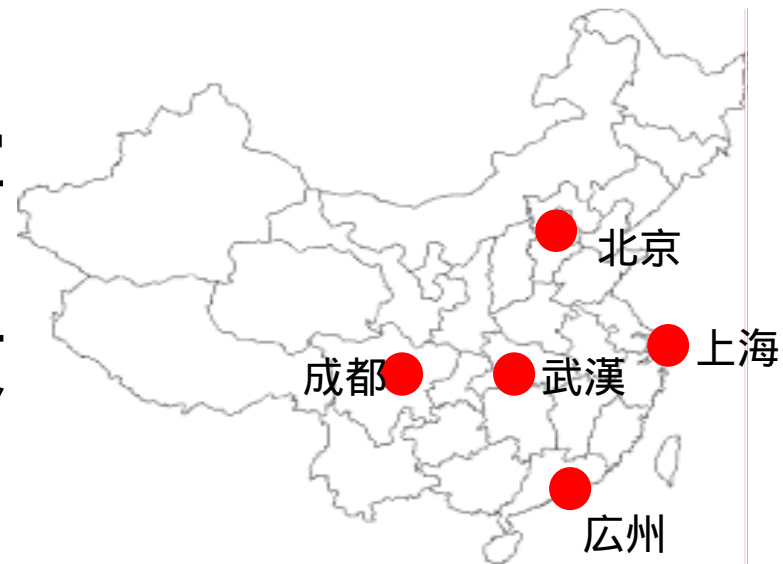
# 重点施策の実施状況

-2

## ●中国における展開

- ・中国における販売拠点として、北京・上海・広州・武漢に続く5番目の拠点として、10月に成都事務所を開設。
- ・中国 南京大学との共同実験室設置

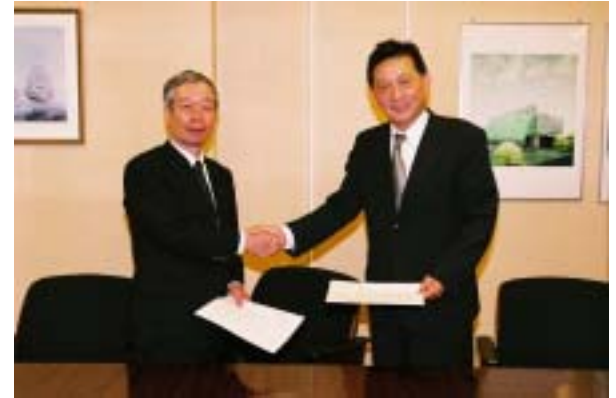
## ●シンガポールをインド・中近東市場での対応拠点に



# 重点施策の実施状況

## -1 産学官連携強化

- 東京大学と日本電子が産学連携室を設立
  - 電子顕微鏡を中心とした先端計測技術の啓蒙普及を目的に設立。
  - 10月3日、調印式。
  - 10月5日には、東京大学工学部武田先端知ホールでオープニングセミナーを開催。



### ■ オープニングセミナー

#### 挨拶

文部科学省 研究振興局  
東京大学 工学系研究科長

#### 講演

東京大学 総長  
科学技術振興機構 理事  
東京大学 医学系研究科長

# 重点施策の実施状況

-2

- 九州大学と日本電子データムとの連携
  - 組織対応型(包括的)連携契約を締結(2004年8月)
  - 九州大学超高压電子顕微鏡室が擁する教育・研究機能と、日本電子データムの有する最先端分析技術サポート機能との連携。
  - 九州・アジアを中心とした地域産業に対する研究・技術サポート事業の構築を図る。

# 重点施策の実施状況

-3

## ●平成17年度産学連携功労者表彰

科学技術政策担当大臣賞受賞

(京都大学 藤吉教授、日本電子(株) 成瀬取締役)

テーマ：

「極低温電子顕微鏡装置」の開発・実用化及び膜たんぱく質の構造解析

産学官連携の推進に多大な貢献をした優れた成功事例に関し、その功績を称えることを目的としている。

## ●第10回慶応医学賞受賞(京都大学 藤吉教授)

テーマ：

極低温高分解能電子顕微鏡開発による膜蛋白質構造生物学の発展

大学による唯一の医学賞として医学・生命科学の領域において顕著かつ創造的な業績を挙げた研究者を顕彰するために創設されている。

# 重点施策の実施状況

- 4

- N E D O (独立行政法人 新エネルギー・産業技術開発機構)との研究開発プロジェクト
  - 「産学官連携・日本最強タッグ」の精鋭12チームの1つ -

- 事例名

「極低温電子顕微鏡装置」の開発・実用化及び膜たんぱく質の構造解析

- 連携機関

京都大学

(社)バイオ産業情報化コンソーシアム (JBIC)

日本電子(株)



# 重点施策の実施状況

## 経営体質のスリム化

- 4月に事業部制、部門制を導入
- 機能別組織から製品系列別組織への再編を実施
- 2006年度までに200人程度削減

# 重点施策の実施状況

## キャパシタ事業の推進

- 日産ディーゼル工業(株)と共同開発を継続中。
- 多様なユーザーのご要望に応えられる体制を整えるため、試作工場を日本電子構内に新設。  
(年度内完成予定)



# 資料取扱上のご注意

本プレゼンテーション資料及び弊社代表者が口頭にて提供する情報には、現時点で把握可能な情報から判断した、仮定及び所信に基づく記述が含まれています。

今後、経済情勢をはじめ半導体市況や研究開発投資など、弊社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、異なったものとなる可能性が否定できないことをご承知おき願います。

日本電子株式会社は、本プレゼンテーションに記載された内容を更新する義務を負っておりません。